



開館30年目で 15万人の節目 郷土資料館入館者15万人達成

1 / 8

15万人目の来館者となった亀井紳之介くん（中央）。
左は吉野館長
右はSLG会長の工藤さん

1月8日(土)、郷土資料館の入館者がオープンから30年目で15万人に達しました。

郷土資料館は、姉妹都市・宮城県白石市の白石城をモデルに建設され、昭和56年9月1日にオープン。市の指定文化財や民具、登別の開拓に当たった片倉家家臣のよらいかぶと、4万年前の炭化木など約1千300点の貴重な資料を展示しています。

また、隣接する文化伝承館では、郷土資料館ボランティアグループ『SLG』の協力で、しめ縄づくりなどの体験学習が行われています。

15万人目の入館者になったのは、この日行われた冬休み工作教室に参加した青葉小学校6年生の亀井紳之介君。市や『SLG』から記念品を受け取ると、「とてもうれしいです。これからは普段できない体験ができる郷土資料館に通います」と、亀井君は笑顔で話してくれました。

災害情報発信や飲料 無料提供機能を搭載

市内5施設に災害対応型自動販売機を設置
12月22日(木)、市は北海道コカ・コーラボトリング(株)と『災害対応型自動販売機による協働事業に関する協定』を締結し、『災害対応型自動販売機』を設置しました。

この自動販売機には、パソコンから遠隔操作できる電光掲示板を搭載しており、緊急時には災害情報の掲示ができるほか、平常時には防災情報や地域の情報などを配信することができます。また、災害時には自動販売機内の飲料水を無料提供することもできます。

同販売機は市役所、市民会館、総合体育館、市民プール、鷺別公民館に設置しています。

12 / 22
2010



▲市役所に設置された『災害対応型自動販売機』